

## 巨石を動かす私たちの神

ブロックアドバイザー 佐藤 信行



「彼女たちは、『だれが墓の入口から石を転がしてくるでしょうか』と話し合っ」（マルコ二六章三節）

聖書には数々の「石」が登場します。有名な所では、ヤコブの石枕、十戒の石板、ヨルダン渡河の石塚があります。さらにダビデが投げた小石、ソロモンの神殿の大石、ダニエル書には預言的な幻の巨石もあります。しかしこれら大小様々な石にまさって歴史上重大な石が、復活の朝、主の墓を塞いでいた石かもしれません。

### ■世の権力の象徴

マルコは「石は非常に大きかった」と記していますが、その大きさは単なる物理的なものだけでなく政治的なものでもありました。マタイは総督ピラトが、祭司長やパリサイ人たちに頼まれて、ローマの番兵を置き、この石に封印をしたと記しています。つまりこの石は、当時のユダヤの指導者のみならず、世界帝国としてのローマの権力者の権威も付与された石となりました。この石を勝手に動かすことのできる力など、もはやないと言える重さがこの石には見て取れます。

### ■女たちの無力さの象徴

一方、イースターの朝、この墓に向かった女たちには、この石を動かす力は全くありませんでした。確かに亡骸に塗る油、香料を買って、週の初めの日の早朝、だれよりも先に墓へと向かいましたが、肝心のだれが石を動かしてくれるかという問題は未解決のままでした。彼女たちには当然、政治的な力もありませんから、むだ足に終わる可能性も高かった行動と言えます。

### ■復活の力の象徴

しかし聖書がイースターの朝の出来事として記すのは、女たちが「目を上げると、石が転がしてあるのが見えた」という結果でした。いつ、どこで、だれが、どのようにという過程を彼女たちは知りません。ただ神の力、主をよみがえらせた復活の力が、この石を動かす、復活の事実を確かに証しています。

昨年のイースターから丸一年、私たちはコロナ禍というまるで大きな石に塞がれたような一年を過ごしました。さまざまな活動を計画しましたが、計画通りには実施できなかったものがほとんどだったかもしれません。さらにコロナ禍だけでなく今の時代全体、キリスト教界全体にも、巨石で塞がれたような問題が山積しています。私たちは個人でも教会でも教団でも、種々の問題を検討し、対策を講じますが、複雑な問題の巨石を前にして常に感じるのには自らの無力さです。

だからこそ毎年巡り来たるイースターの節期、私たちが巨石を前に目を上げるのは、主の復活の事実だと言えます。そしてそこで描かれるのは、最初から石が動く計算での行動ではなく、たとえむだ足になっても墓に向かった女たちの姿です。確かに神が石を動かしてくださなければ、徒勞にさえ見えるのが神の国の働きです。しかしそのむだ足を恐れずに墓に向かった女たちに対して、いつとか、どんな時とかいうことは隠されていても、常に巨石を動かすことができる証しが、主がよみがえられた復活の朝の事実です。

## 目次

- 巨石を動かす私たちの神……佐藤信行……1
- 新しい局長の抱負と展望、若手牧師研修会……2
- 新ブロックアドバイザーの抱負、卒業生の紹介……3
- 海外トピックス、国内教会局、教団運営委員会……4
- 故藤本栄造先生追憶、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

# Immanuel

新局長 抱負と展望

たとえ課題が山積しようとも



国内教会局長  
大兼久 芳規

「二匹の魚」のわずかな物で多くの人を養いなさいと。それは「わずかなものを用いて、人を養う。それを信じて行動を起こしますか」との信仰の問い掛けがありました。国内教会局の担当をするには、足りない、わずかな者です。しかしそこに主が、そうせよと言われ、信仰をもって、足りなさをいつも埋め合わせてくださる方を覚え、進むことを示されました。

出エジプトの時に、目的地のカナンまでの行程を思う時、欠けと足りなさは、いくらでも数えられました。しかし、それを数え退くのではなく、足りなさを埋め、その度毎に必要なを与えてくださる方がおられることを信じて進む。私の導き手、確かな供給者として信じる信仰でした。このお方を信じて、進みたいと思います。

「さあ、それを汲んで：持つて行きなさい。」ヨハネ一章8節  
CSの奉仕から語られたことがあります。華やかな婚礼の席でどう酒がなくなり、その欠けと主による信仰の訓練を学びました。給仕する者たちは、母マリヤから「あの方が言われることは、何でもしてください。」と言われ、その通りにしました。給仕する者たちは「近所をまわり、ぶどう酒を集めに行きなさい」と言われたら何の躊躇もなく、言われたとおりにできたことでしょう。しかし主は、必要としていたぶどう酒を集めるのではなく「水を汲みなさい」と言われました。それは自分たちの理解を越えた、否、自分には理解できないと感じることでした。主は私たちの考えとは異なることを示され、信仰を試されるお方です。

それは五千人の給食のときも同じです。多くの人たちの必要があるのに、目の前の「五つのパンと

を埋めてくださる活ける方を見上げて歩みます。

新局長 抱負と展望

宣教師に寄り添う態勢を



世界宣教局長  
田辺 寿雄

今次総会において、世界宣教局長のご任命を頂き、宣教師時代は大変お世話になった世界宣教局に恩返しをする機会が与えられたと思っています。

実際に局長としてのお仕事を始めてみると、わからないことだらけです。前局長や局員の先生・信徒の皆様は助けて頂きながら、仕事内容を学んでいます。

まずは、月々に持たれる実務会を通して、局員の皆様と信頼関係を築き、大切な情報をしっかりと共有できるように、密なコミュニケーションを図りたいと思います。それぞれの経験と賜物が活かされ、一人ひとりが尊く用いられるような楽しいチーム作りを目指したいです。

また、国内外の宣教師の皆様とも同じように信頼関係を築けるように努力したいと思えます。コロナのために帰国できず現地で奉仕を続ける宣教師や、宣教地に行け

なくなった宣教師。退職される宣教師や国内任命となる宣教師。新たに派遣される宣教師など、同じ宣教師でも状況は様々です。局としてどのように各宣教師に寄り添い、必要かつタイムリーなサポートができるかが問われているように思います。

国内教会に対する働きかけも、創意工夫を凝らし、新しいことに挑戦できたらと願います。教会の祈りと献金なしに、宣教の働きは立ち行きません。会計のことや宣教師の方の実際の働きなど、もっと理解していただけるような努力と工夫が必要と感じています。そのためにも、局の努力と共に宣教師方の協力も必要です。世界宣教に関心を持つ牧師や信徒の皆様の声も受けとめられるしくみが必要になってくるでしょう。

世界宣教の中心は、与える愛にあります。父なる神がまず、私たちに御子を与えてくださいました。その愛に応えて、召しを受けた宣教師は生涯をささげます。教会が宣教師を送り出すのも与える愛です。その宣教師を支えるために祈り献金することも、与える愛です。

愛が集まり、愛が溢れ出す、そんな宣教の働きが続けられますように、お祈りとご協力を宜しくお願いたします。  
「与えるほうが幸いである。」  
(使徒の働き二〇章35節)

生涯学習課……

若手牧師研修会  
牧師と交友関係～  
不健全な孤独に  
気づけて

教育局長 小川宣嗣

コロナの影響でリモート研修が主流となって来たこともあり、今年会年度中は3回の若手牧師研修プログラムを持つことができました(昨年度までは年に一回)。  
3月2日(火)、研修対象者11名+スタッフ5名、全体で16名が参加、プログラムはアイスブレイクの時、発題①、グループディスカッション、発題②、締め括りなどでした。

メインの発題テーマは「牧師と交友関係～いたらいいな、こんな友達」。田辺寿雄師がご自身の体験から、牧師を不健康・不健全に追い込む「孤独」に注意すべきことを具体的に語ってくださいました。学生、神学生、留学生、宣教師、国内での牧師生活の中で与えられた様々な友との関係の祝福が紹介され、友を持つことの必要性、聖書的・社会的・牧師職特有の孤立化の危険、どのような友を求める必要があるか、また自分が誰かの真の友になれるか、などについて教えられました。3、4人の小グループに分かれての意見交換と祈りも祝され、有意義な一時でした。背後のお祈りを感謝致します。

抱負と展望 .....

つなぐ働きを責務として



北日本ブロック  
細田 恒太郎

「キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることとなります。」

(エペソ四・16)

教団総会で突如としてB Aの任命を頂き、何をされるのかも良くわからないまま困惑の中で、新しい総会期をスタート致しました。2月の末に国内教会局長、B Aの会合を通じて働きの内容を伺い、その広範な働きに圧倒され、神様の助けを仰いでいます。

牧会経験豊富な先生方の中で、私にできることはわずかだと思いますが、ただ地域の教会、また先生方が抱えておられる課題に寄り添い、また地方の声を大切に拾い上げ、運営委員会にお届けする。また運営委員会の方針や考え、手助けを丁寧にお伝えする。そんな「組み合わせ」「つなぎ合わせ」としての責務をできる限り果たし、群れが愛のうちに建てられるために仕えていきたいと願っています。

抱負と展望

神が望んでおられることを



関東南ブロック  
佐藤 信行

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」

(Iテサロニケ五・16、18)

この年、教会とともに私個人にも与えられた御言葉です。前半が有名ですが、特に心に留まっているのは後半です。神の御心は常にあるのは後半です。神の御心は常にあるのは後半です。神の御心は常にこの御言葉にはあります。

今回B Aという、経験的にも実質的にも全く相応しくない任に任じられた際にも、真つ先にこの御言葉が心に浮かびました。これから教団の課題、教区、各教会の課題を少しずつ知らせていただく中で、おそらく考え込んだり、迷ったり、葛藤したりすることも多くあることと思います。

その時こそ「キリスト・イエスにあって」喜び、祈り、感謝するというこの御言葉の真の恵みと力を知っていく機会だと思っています。お祈りをもってお支えいただければ感謝です。

抱負と展望 .....

水を汲みし僕に徹し



中部ブロック  
浜田 耕三

「行け、あなたのその力で。：わたしはあなたとともにいる。」

(士師記六・14、16)

このたび驚きと恐れをもってB Aの任命を拝受致しました。その重荷と責任を痛感する中で与えられましたのがこの聖言です。また今年の年頭聖句(II列王記六・16)も心に通って参りました。(年頭聖句はこの任命を踏まえたものであったことを示されています。)

自らのうちには、この務めにお応えする何ものをも持っていないことを覚えますが、全てをご存じで、弱さのうちにこそ、恵みと力を現しなされる主を仰ぎながら(IIコリント二・9)、専ら「水を汲みし僕」として、託された務めにあたらせていただきたく願っています。そのためにも先生方、愛兄弟方にはお祈りとご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

そしてお互いが仕え合い、支え合いながら、この「末の時代」にあつてなお主の栄光を拝すべく、ともに福音のために労して参りたいと願っています。

感謝と期待

最善を尽くす働き人に



西日本ブロック  
葛田 聡毅

「あなたは務めにふさわしいと認められる人。：真理のみことばをまっすぐに解き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神に献げるように最善を尽くしなさい。」

(IIテモテ二・15)

総会書記席で議事録をまとめている最中に、突然内山前代表から階下の会議室に来るようにお声掛けがありました。エレベーターの中で胸を締め付けられるような感覚で何が起きるのかを悟り、すぐ引き返したい思いがしましたが、主の御声なら振り向いてはいけないうと、改めて意を決して会議室の扉を開き、任命を受けました。

過去を振り返ると恥じ入ることばかりで、決して務めに相応しい者ではありませんが、全ての恥を十字架で背負うからと仰せの主に委ねて、改めて「自分を神に献げるように最善を尽くす」ほかありません。徐々に引き継がせて頂きながら、諸先輩たちがいかに重責を担い、心を砕き、労を払い、仕えてこられたかを学びつつあります。どうぞお祈りください。

聖宣神学院卒業生紹介

お祈りをいただき  
ありがとうございました  
**第68期生卒業  
新たな出発です**

3月12日(金)BTCの卒業式が行われました。今年はコロナに対する緊急事態宣言が延期された影響もあり、例年よりも規模を縮小し、本館教室においてZOOM併用での卒業式となりました。第68期生は2名です。

- ・田中利道兄(藤枝教会出身)
- ・藤井佳代子姉(東京FM小金井教会出身)

なお1年間聴講生として学ばれた金承柱兄(東京FMみずほ台教会出身)は韓国の神学大学院へ進むために、神学院での学びは今学期で終了となりました。3名の今後の御生涯に主の豊かなお導きがありますようにお祈りを宜しく願っています。



国内教会局から

生き生きとした教会に  
イースターに思う



イースターを迎えます。教会はイエス・キリストが降誕されたクリスマス、復活されたイースター、教会が誕生したペンテコステを一年の中でも最も大切な日として祝います。この3つの共通点は「イエス・キ

スト」と「いのち」だと思えます。教会はイエス・キリストが中心におられるところであり、生き生きとしたいのちに満ちあふれていくところと言えるでしょう。イエス・キリストは十字架によって、私たちが死に至らしめる罪から解放し、復活を通して永遠のいのちが死に打ち勝つことを証しされました。

イースターを迎える春の季節は自然界にもいのちの息吹があふれ、暗い土の中から、硬く干からびた木の幹から、新芽が顔を出し、いのちの力強さを主張するかのようです。教会も私たちの信仰生活も、閉塞感は否定できないかもしれませんが、それを打ち破るような復活の主の恵みを力強く証ししたいものです。(謙)

「生き残つたら奇跡」と戦時下の日本を報告した書簡

ローマ発共同通信が、第二次大戦中に駐日ローマ教皇使節(現在の大使に相当)を務めたパウロ・マレラ大司教が戦時下の日本の様子をバチカン(ローマ教皇庁)高官に報告した書簡が現存することが分かったと報じた。書簡は、空襲警報が絶えず鳴り響く日々に言及し「この破壊の後に生き残る人がいれば奇跡だ!」「外国人にできることは全く何もない!」と伝えていた。教皇ピウス12世(在位1939〜58年)関連の機密文書をバチカンが公開、共同通信が1944年12月12日付のイタリア語で手書きされた書簡を確認した。

■ニューヨークYMCAがキャンブ場3カ所売却へ  
米紙ニューヨーク・タイムズは、「グレート・ニューヨークYMC A」が、1918年から運営してきた同市北郊のユグノー地域にあ

る「約百億円」の歳入不足に陥る「キャンブ場売却は苦渋の決断だった」と広報担当者は話した。夏のキャンブには、毎年約1200人の子どもたちが参加していた。このキャンブでカウンセ



海外トピックス

るキャンブ場、タルコット、マカリスト、グリーンキルの3カ所を売却すると報じた。「資金源のスポーツジムのコロナ下で閉鎖され、半分を超すスタッフ2千人を解雇しても1億ド

ラーを務めたこともあるジョン・ブロックさんは「マイノリティ! コミュニティーが深刻な打撃を受けている例の一つだ」と指摘。売却額は5百万ドル(約5億円)を予想しているが、最終決定には至っていない。夏のキャンブに引き続き使用することを条件とする、買い手捜しも容易ではない。

■世界80カ国以上で福音伝えたルイス・パラウ死去  
著名な大衆伝道者ビリー・グラハムの後継者の一人として目され、世界80カ国以上でイエス・キリストの福音を伝えたルイス・パラウが3月11日、米オレゴン州ポートランドの自宅で肺がんのため86歳で死去した。

パラウは65年以上にわたり、世界規模の伝道で影響力のある務めを果たしてきた。80カ国以上でメッセージを語り、またテレビやラジオ、書籍などを通して10億人以上に福音を伝えた。(平瀬聡樹)

教団運営委員会から……

総会、そして年会  
新しい体制で進発

広報 浜田耕三



標榜する群れに相応しくさらに整えられるべく、ともに労して参りたいと願っています。

年会につきましては(既に開催されましたとおり)、全伝道者がネットにて出席できるように変更しました。また各局の報告とともに、当日のプログラム・当務者の確認も行われ、オンラインでの採決方法などについても検討されました。

また長期にわたって「教職試補」の職位にあられる先生方に、「教職」に進まれることを(年会において)お勧めすることが検討、承認されました(詳細は、年会時に説明のあったとおりです)。

ハラスメントに関わる学びと研修を継続します。特にハラスメントに対する理解を深め、健全な教団・教会運営を目指して、内外に良き証しが立てられますよう更に取り組んで参ります。

信徒局「エリア委員」の推薦につきましては、諸々のご意見や各教区の事情を踏まえまして、国内教会局と調整しながら詳細について検討して参ります。

コロナ対応につきまして、年会では(オンライン開催でありましたため)研鑽の時を持つことができませんでした。そこで国内教会局と宣教研究部会を中心に、コロナ禍中の教会についてのプログラムをネット上に立ち上げます。そこではコロナ禍での教会の対応、傷み、伝道の働き……などを分かち合いたいと願っています。

初めに新代表の岩上祝仁師より、コロサイ書一章24〜29節が開かれ、私たちが召されたのは成熟した教会を建て上げるためであり、その希望と力は内任のキリストにあると語られました。続いて新総会期の進発にあたり、成熟した教会を建て上げるべく、代表より3つの基本姿勢が示されました。①健全な神学(聖書信仰)に基づいた教会運営。②メソジスト神学に基づく実践。③伝道と教会建設。この教団が聖潔を

追憶

故藤本榮造先生

2021年2月18日(享年95)



戸塚 祝・雅昭  
藤本 満・圭子  
南場康子・良文

父・榮造の葬儀に、オンラインでご参列をいただきましたこと、心から感謝いたします。河村襄先生が司式してくださいました。

父は、召された2月18日の前日は、かねてより眼鏡を新調したく、一時間かけて車椅子での検眼の出張サービスを受けていました。夕食も普通に食べ、就寝し、目覚めると天国でした。早朝、施設に呼ばれた長女の祝が見守っていましたので、眠るように息を引き取ったことでしょうか。

\*  
 ・父・榮造は1948年、母・幸子は1949年に受洗。  
 ・二人揃って1954年に聖宣神学院を卒業し、同年に結婚。  
 ・最初の任地は、榮造の母教会、

京都天授ヶ岡教会でした。  
 ・そこで3年奉仕した後、57年にイムマヌエルに移籍し、福岡で開拓伝道。  
 ・4年後の1961年に高津教会に派遣され、以来、60年が経過しました。  
 ・2004年に、横須賀のケアハウスに、2019年に横浜市の施設に転居しました。  
 みなさまに、両親は祈られ、育てられ、守られ、支えられてきました。思えば、母・幸子が60歳でもも皮下出血に倒れ、その後の回復が思わしくなかったとき、あるいは父・榮造が教団の責任を担っていたとき、みなさんが祈り励ましてくださった。誰しもが通るような困難でしたが、主イエスに伴われ、地上の生涯と奉仕を全うすることができました。

「ここまで主が私たちを助けてくださった」(1サムエル七・12)と言った。この葬儀も感謝の記念塚となりました。

藤本榮造先生を偲んで

献身・建徳・  
率先の模範

引退教師 三森春生

私が聖宣神学院に4期生として入学したとき、男子寮生は三、二年生各3人、合計6人でした。そこに同数の新入生が加わったので、上級生には大きな負担だったでしょう。藤本榮造先生は二年生で、当時は他教団の委託生でした。がリーダーシップを発揮して、何も分からない新参者に模範を示し、何かと積極的に心配りをしてくださいました。親族や交際範囲がほとんど関東に限られていた私は、寮生活で言葉をかけられると、生粋の京都弁が早口に聞こえ、いつも叱られているように感じたことを懐かしく思います。このことを通して、伝道・牧会の現場での言葉のコミュニケーションの大切さを考え、実習する良い機会となりました。出身教会での数年を経てイムマヌエルに転籍された先生は、高津教会での牧会とともに本部関係の要職を数々担われ、1997年には教団第4代総理に選任されました。教団外の働きにも貢献され、本部があるお茶の水OCCビルに同居する諸団体の職員方からも一番尊敬を受けていたと聞いております。



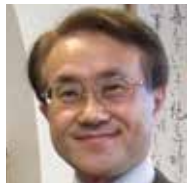
コロナ鏡に映せば

首都圏でも3月21日に緊急事態宣言が解除されました。収束の当てのない解除で、決定に関わる人たちの逡巡がその表情からも伝わってきます。リバウンドのないことを祈ります▼この間、牧師たちは集まることもままならない教会を抱えて、文字通り羊たちを山に放牧する羊飼のような心境でした。気になっても訪問することもはばかられます。特に入院された会員の方へはお見舞いに行き、祈ることもできません。かなりのフランス・トレーションでした▼多くの教会で礼拝説教のオンライン化が進みました。これにはすばらしい副産物がありました。普段、説教者は自分の説教を改めて聞くことはまありません。ところが説教の動画を流すため、いやでも自分の説教を聞き、その仕草を見ることになりました。多くの先生方は愕然としたと思います。なんて内容の乏しい説教なのか、滑舌も悪く、言葉の選択も稚拙、顔つきも仕草も最悪、霊的な滋味のかけらもない。こんな説教をよくも教会員の皆様は我慢して聞いてくださった、その忍耐力へただただ感謝。説教への自信、確信もペシヤンコにさ

れました。これが最大の副産物です▼昨年からの地域の諸教会が協力して災害時のネットワークを立ち上げました。多くのカトリック教会が参加してくれました。数年前に、日本基督教団の信徒委員による教団の現状報告を聞く機会がありました。そこで「別帖」会員の定義の話がありました。別帖というのは教会員名簿の分類の一つです。礼拝への出席もなく、連絡も取れず所在も不明、それが長く続くと「別帖」へ移すことになりました。日本基督教団では、何十年も礼拝にも来ない、連絡もして来ないと「別帖」移していたと思うのです(たぶん私たちも同じだと思います)。ところがカトリック教会では、教会があらゆる手を尽くし、連絡を取ろうと捜しても、どうしても所在の分からない会員を「別帖」に入れていこうとする。説明では「プロテスタント」それが正しいかはともかく」とカトリックの態度はまったく逆になっている。羊が自分から戻って来なければ「別帖」、カトリック教会は良い羊飼いのように捜し続けるのだと。コロナ後に私たちはどうしているでしょうか。(矢木良雄)

## 巻頭言

## 派遣の主の御声を



世界宣教局  
野田 禎

「私を遣わしてください。」

イザヤ六章8節

この年会で、局長は梅田登志枝先生から田辺寿雄先生に、台湾宣教師は平瀬先生から久保先生に代



# 広げた翼

Immanuel  
His Wings

Department of World Missions

## 世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

わり、ザンビアの根廻宣教師と富澤宣教師は引退されました。また広げた翼の編集は宮崎聖輝先生から阪下崇子先生に代わりました。教団の世界宣教局HPに、葛田就子宣教師、根廻宣教師、富澤宣教師の救い、きよめ、献身の証があります。就子宣教師は小さいころから主都中央教会に宣教師がご奉仕に來られ、「憧れを感じていた」と語っておられます。根廻宣教師は中学生のときに船橋教会から宣教訪問団の一員としてメキシコの阿部先生のもとに行かれ、そこで働いている方の輝いた姿を見て、「宣教師になりたい」と願われたこと、富澤宣教師は年会でケニア宣教師だった竿代照夫先生から、テヌウエク病院の働きのこと、働き人の求めを聞かれ、応答され

ました。神様のため奉仕ができることは本当に素晴らしいことです。宣教師の輝いた姿を見て、続く宣教師が興されていくのでしょうか。コイン献金のラベルにセント・ミーという讃美歌のQRコードがあります。この讃美歌は日本福音同盟（JEA）主催で世界宣教青年大会「すつと青山」のテーマ曲でした。会場二階のロビーにいくつものブースが並びました。その一つがイムマヌエル世界宣教局のブースで、手伝いを申し出てくれた青年がいました。K君と言います。K君はそのあと神学校に行き、牧師になりました。K君がそのブースのことを覚えていたかは分かりませんが、何度も賛美されたセント・ミーは今も心の中にあるのではと思います。そのK君は久保光彦先生です。昨春秋、コイン献金のラベルを作っているときには、平瀬先生方の後任に久保先生が導かれるとは知りませんでした。今、イムマヌエルにはたくさん

◆2月の歩み 春節  
今年の暦では、春節（旧正月）のお休みは、2月10～16日の1週でした。昨年はこの時期、世界に先駆けて移動の制限や2週間の休暇延長など、官民総出でのくい止め策の周知徹底していたことが思い起こされます。その後、施策が攻を奏し、市中の新規感染者はゼロの状況が続く、公共でのマスク着用や入口検温、手消毒などはあるものの、大幅に制限が解除されています。



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世\*2021年3月11日

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」  
(ローマ八章28節)

私たちの救い主の御心をより賛美します。いつも背後にありまして、尊いお祈りと温かいご支援をありがとうございます。

◆3月 送別礼拝 送別愛餐会  
3月に入り、台中教会では、光世師の送別礼拝、午後は、送別愛餐会がもたれました。送別礼拝には、コロナの影響でしばらく来会できずにいた他教会の兄弟が送別に駆けつけてくださいました。冒頭の聖句により23年の奉仕の感謝の証と共に、神さまを愛する人々に主はこのように備えておら

そんな中、今年の春節を迎えましたが、直前に台湾北部のある病院施設で発生した帰国者によるクラスターの追跡で話題はもちきりでした。「ウィルスはどこにでもある。だれにでもリスクはある。大切なのは、個々の自覚、正しい情報で、正しい行動をとること」との説明が強く心に残りました。国内と世界の状況の大きな違いを精査・分析しつつ、なおも懸命な水際のくい止め、変異種への対応、ワクチンの普及、実用化が急がれています。

3月の教報の公告の通り、台湾の宣教師が交代することになりました。お祈りの課題に書かれていますように、現在、後任者の宣教師ビザ取得の真つただ中にあります。コロナの関係もあり、諸手続きの停止された期間があり、申請書類の再確認をしつつ、準備を進めている状況です。スムーズに申請が受理され、早期にビザの発給を見ることができると、覚えてお祈りを頂けると、感謝です。

れると、励ましと恵みのみことが  
が力強く取り次がれました。その  
証しの多くは、異文化で生活した  
者には、大きく領けるものだった  
ようです。

礼拝後の送別愛餐会は、教会の  
愛兄弟の企画によるもので、当日  
のプログラム、進行、音楽、PPT  
の作成と操作、スライドショー  
編集と操作、会場作り、配膳など  
だけでなく、これまで光世先生が  
中心となっていた裏方の諸準備―  
―食事の注文、手配や役割分担な  
ども、すべて愛兄弟方が担って  
くださいました。会の締め括りに、  
主を仰ぎ見ようと賛美しつつ、一  
人ひとりが思い思いの送る言葉を  
くださいました。賛美あり、踊り  
あり、涙と笑い声に満ちた幸いな  
時でした。送ることばの中で、「こ  
の教会がなければ、今の私はいな  
かったと思います。」「先生方に引  
き合わせてくれた出会い、神さま  
の導きを感じ、心から感謝しま  
す。」との求道中の方々の言葉に、  
大きな励ましを受けています。

光世は、3月16日に本帰国し、  
14日間の隔離措置を経て、日本の  
生活に移行します。時々刻々、状  
況や入国制限などの規制が変化す  
る中です。スムーズに進められま  
すよう、覚えてお祈りをお願いし  
ます。

(注)3月18日時点で、光世先  
生は無事帰国され、ミッションハ  
ウスでの隔離生活に入っております。  
お祈りください。)




**ZAMBIA**

**ザンビア**

富澤 香\*2021年3月10日

「あなたの道を主に委ねよ。主  
に信頼せよ。主が成し遂げてくだ  
さる。」(詩篇三七篇5節)

救い主の聖名を讃美いたします。  
この度、第76次年会にて宣教師の  
働きを締めくくることがなりました。  
昨年4月、新型コロナウイルスの世界  
的な流行のため一時帰国いたしました  
でしたが、帰国した時には思いもよ  
らなかつた引退となりました。昨  
年、何度もザンビア赴任の予定を  
定め、準備し、再赴任を試みてま  
いりましたが、度重なる渡航延期  
となる中、今後の年を重ねてから  
の生活などを考えさせられるとき  
ともなりました。今回頂いている  
任期は2022年まででしたので、  
任期半ばでの引退となります。

神学院在学中に膠原病を発症し、  
1989年に3、6か月の試験期  
間からのスタートではありましたが、  
ケニアに派遣されました。召  
してくださった主は常にご真実で  
いてくださり、送り出してくだ  
さっている愛兄弟、諸教会の篤い

祈りに支えられてのケニアでの21  
年間でした。格別、テヌウエクの  
ファミリーに育てて頂いたことを  
思い起こしております。2010  
年にはザンビアへの派遣となりま  
した。ザンビアでは計10年の奉仕  
となりました。膠原病を抱えつつ  
アフリカでの奉仕を続けることが  
許され、背後の祈り、主ご自身の  
御手に支えられ、感謝の思いで  
いっぱいです。

帰国の際には、我孫子のミッ  
ションハウスにもお世話になりま  
した。とても良いところで本部へ  
も行きやすい場所です。周りには  
お店もございます。また手賀沼が  
あり、歩くにも適した環境です。  
今回、帰国中にある八百屋さんが、  
子どもの頃、教会のキャンプに出  
席されたことを話してください心  
をひらいてくださいました。ここ  
を離れても祈り続けます。引越  
前にはミッションハウスの掃除  
を(慌ててするのでなくて)長年  
の感謝を込めてさせて頂きました。  
山口民雄先生ご夫妻、水口聡さん  
ご夫妻には大変お世話になりました。  
感謝しております。

長年、教団が、膠原病を患うこ  
のような者を受け入れてくださり、  
宣教師として派遣し続けてくださ  
り心から感謝申し上げます。どこ  
に行っても宣教は続くとの思いで  
す。  
今度は日本においての再派遣と  
受け止め、次のチャプターへ進ま  
せて頂きます。ありがとうございます  
ました。



**ZAMBIA**

**ザンビア**

ねまわり  
根廻恵子\*2021年3月5日

この度3月を持ってザンビア医  
療宣教師を退職することとなりま  
した。2012年からの通年9年  
間、お祈りとサポート、また帰国  
時には温かいお交わりを心より感  
謝申し上げます。未熟で欠けの多  
い者で皆様には常にご迷惑、ご無  
礼をお掛けしたことがあったこと  
と思いますが、主にあつてお許し  
いただければ幸いです。

2012年5月にザンビア医療  
宣教師として派遣して頂き、ジン  
バ病院での働き、看護師及び助産  
師資格の取得、ジェンボ宣教師館  
建設、ジェンボクリニックでの働  
きと振り返るとすべて主が常に共  
にいて導き続けてくださっています  
ました。自分は弱く何もできない者  
ですが、主が、日々必要な力、助  
けをくださいました。

2019年10月に第2期の奉仕  
を終え、一時帰国し教会の巡回報  
告をさせていただきます。当初  
は2020年4月にザンビア再赴  
任の予定でしたが、コロナ感染症

により延期となりました。その後  
もいつ再赴任できるのかと何度も  
出発準備を進めてまいりましたが、  
その度中止となりました。

そのような中、主の不思議な  
導きにより伴侶者が与えられ  
2020年11月に結婚が許され、  
3月に退職することが決まりまし  
た。再赴任を願いつつも道が閉ざ  
され、なかなかザンビアへ行くこ  
ともできない現状、そのような中  
導かれた結婚、再赴任できていな  
いままでの退職。神様の御心を求  
め思いを描く願いと導かれていく  
道が一致せず、気持ちの整理がつか  
きませんでした。御心になるよう  
にと祈りながらも自分の願いが正  
しいと委ねきれず握りしめている  
未来、全知全能である方の力を信  
じきれいでなかった不信仰の私に  
マルコ九章14、24節「口をきけな  
くする霊」に憑かれた息子とその  
父親の記事が語られました。答え  
ばかりを求めていた私に、神様は  
答えではなく神様のご臨在の確信  
を与えてくださいました。そして  
私が計画する以上のことを神様は  
計画して下さっていることを語り  
り続けてくださいました(イザヤ  
五五章9節)。日々主の臨在の確  
信によって目が開かれ、気付けさ  
れる恵みに感謝しつつ、継続され  
る主の働きのために、主の栄光の  
ためにさらに歩み続けていきたい  
と願っております。今後の導き  
のためにも続けてお祈りください。  
皆様の上に主の豊かな祝福があり  
ますようお祈りいたします。



**CAMBODIA**

**カンボジア**

葛田緑乃\*2021年3月6日

「わたしの父は今に至るまで働  
いておられます。それでわたしも  
働いているのです。」  
(ヨハネ五章17節)

総会を越え新陣営が整えられま  
した。1月末、カンボジアのヴァ  
ンディ師が月例スカイプ交信の際  
に「来月の総会のため祈っており  
ます。特に宣教局長選出のため  
御心がなされるように祈ります。」  
とのことばに、宣教地からの祈り  
が捧げられるような関係に成長し  
てきたことに心が熱くされました。

総会後のある日、私にとっては  
ダビデに与えられたヨナタンの存  
在である霊的友人からカンボジア  
のためにと献金とお便りが届きま  
した。IGMから年齢の理由で引  
退されたご夫妻ですが、今に至る  
まで、摂理で備えられた場所で真  
実に牧会に専念されつつも、小さ  
き者を覚えてくださり、祈りと交  
わりが許されてきました。久々の  
通信と宣教の重荷を共有してくだ

さる先生に「かけ放題」による感  
謝と交わりの長電話。その会話の  
中で高齢になられた先生が今なお  
奉仕を続けておられるのは冒頭に  
記した御言によることを語られま  
した。その時、そのみことばがこ  
だまのように私の心に響き、その  
後なお思い巡らしております中で  
神様が私の祈り、カンボジア宣教  
の統投に関する御心の確認への答  
えとして同じ聖句を心に投じてく  
ださり、心に「喜びと確信」を確  
かにされました。

その御言による確認がなされて  
間もなく、ザンビアの報告スペー  
スを埋めることが可能ですかとの  
問い合わせに、コロナ禍にあるカ  
ンボジアで「今もお働きになっ  
ておられる父なる神様」と「ゆえに  
私も働くなりと仰せの御子イエス  
様」のお働きのリポーターとして  
の働きが加えられたことを感謝し  
ております。という訳で今月から  
毎月主許し給う時までカンボジア  
宣教報告は継続しますのでお祈り  
の力も増し加わることを期待して  
感謝しつつ毎月ご報告させて頂き  
ます。

今月はこの写真、ヴァンディ師  
のお父様が聖書を先生と一緒に読  
むまで心が開かれてきた御報告で  
す。詳細は「カンボジア宣教ニュー  
スレター」第18号をご覧になった  
方々にはダブることもご容赦いた  
だき、次月のご報告に加えて  
頂くことにしたいと思います。な  
お信仰の決断に至るようお祈りく  
ださい。



■会計報告2月分

宣教献金 一、九三三、〇〇七円  
月平均 二、三八四、九九二円

**お祈りの課題**

- 台湾
  - ◆後任宣教師のビザの申請受理  
早期発給のため
  - ◆大きな節目を迎える台中教会  
台南日語礼拝が守られますように。  
新たに芽生えつつある信徒主体の  
働きが確立しますように
  - ◆光世師が、3月16日、帰国。  
(14日隔離を経て、日本での働き  
に移行します。)
  - ◆日本にいる子どもたちの学年の  
締め括りのため
  - ◆新しい環境で生活を始める宣教  
師・家族が速やかに順応し、働き  
が祝福されますように
  - ◆フィリピン(豊田)
    - ◆オンラインクラスで「コミュニ  
ケーションをとっている職員と学  
生たちの健康と霊性のために。校  
長代行のバルデス先生のために。校  
常喜は3科目を担当しています

- ◆ウエスレアン教会の霊的、経済  
的な必要のため
- ◆事故、事件、怪我、過ち、災害  
病氣、疫病から家族が守られます  
ように。常喜の右目網膜の回復の  
ために。宣教師ビザの更新手続き  
のため
- ◆香港(鹿島)
  - ◆集会人数制限が緩和され、集つ  
て礼拝が再び捧げられるように
  - ◆コロナ禍で経済的な戦いの中に  
ある兄弟姉妹方のために
  - ◆歴史的な転換点にある香港の政  
治・社会秩序の安定と経済的な回  
復のため、特に始められたワクチ  
ン接種がスムーズに行われますよ  
うに
- ◆カンボジア(葛田緑乃)
  - ◆4月半ばでテス夫人は現在の職  
場を切り上げてヴァンディ師の伝  
道活動に加わることになりました  
がダビデ君の教育費が備えられま  
すようお祈りください
  - ◆無実の罪で獄中にあるパウロ兄  
の獄中生活が主の生ける証人とさ  
れ福音の勝利を拝することができ  
るように
  - ◆コロナ終息と宣教の再開、葛田  
の狭窄症(痺れ)の全快のため
  - ◆ケニア(葛田就子)
    - ◆周辺病院のストライキが続く中  
守られた感謝
    - ◆ウィルス関連の様々な長期スト  
レスの中にある患者さん、ご家族  
スタッフのため
    - ◆麻酔科、整形外科を始めとする  
働き人(ルカー10章2節)が起こ  
されるように



# 聖宣神学院報



## Immanuel Bible Training College

### 今いるべきところ

院長 ● 林 正弘

「割り当ての地は定まりました。私の好む所に。実にすばらしい私へのゆずりの地です。」

(詩篇 一六・6)

昨年の春は、緊急事態宣言が出されて新一年生を見かける機会がほとんどなかったように思います。が、例年この時期、体に不釣り合いな大きなランドセルを背負った子どもを見かけます。成長を見越して少し大きめの制服を身にまとった中学生を見ることもありません。しかし、そのうちそれがびつたり合うようになっていきます。私たちも新しい状況や環境に身を置いたときは、不慣れでいろいろ

なことに違和感を覚えることがあります。しかし、次第にそれが普通になっていきます。もともと、私などは今の立場には一年経つても慣れずになかなか「普通」にはなりません。

慣れることより大切なことがあります。それは、自分は今、みどころの場所にいるとの確信です。どんなに違和感があったとしても、困難が大きかったとしても、自分は主に導かれて今いるべきところにいるのだ、との納得があれば、そこがゆずりの地、祝福の場所となります。特に神学院においてはこの納得が不可欠です。特殊

な環境かもしれませんが、そこが主からの割り当ての地、好むところ、実にすばらしい私へのゆずりの地となる幸いは格別です。この納得と確信は、主に對する信頼から出てきます。この詩篇には、「ほかの神に走った者の痛み」がある一方で、「あなたこそ私の主。私の幸いは、あなたのほかにありません。」との主に對する一途な信頼の告白があります。また「私はいつも、主を前にしています。」とあり、その姿勢から出てくる喜びと楽しみが歌われています。



コロナの最中でしたが、第68期生の卒業式が行われました

私たち一人ひとりが置かれている環境はみな違います。しかし、その場所が今いるべきところであると確信できたならば幸いです。

### 神学エッセー

## 旧約聖書の視点 2 記者の視点～各書を見渡す



佐藤信行

私たちがよく知らない場所に出かける際、手もとにあると助かるものが「地図」です。同じように、難解に感じる旧約聖書をより良く理解するために有用なものの一つが、地図だと言えます。聖書を読みながら、出てくる地名などをちよつと巻末の地図などで探してみたり、さらには聖書の舞台となる地域の気候や風土など、地理的な情報を少しでも学ぶと、聖書がより立体的に見えてきます。

地理的な地図も有用ですが、旧約聖書を理解するのにもう一つ有用な「地図」があります。それは記述内容に関する地図です。一般にはアウトラインと呼ばれる類のものですが、旧約の各書に、どのような内容がどのような順番で記されているかを、注解書を見るだけでなく、多少ぎこちなくても自分なりにまとめると、内容の地図と言えるものができてきます。

これは旧約の歴史記述の部分から始めると良いですが、前回お薦めした旧約の舞台を徒歩で歩きながら、目に入る情報を、例えば英語で5W1Hと呼ばれる中の4W、いつ When、どこ Where、だれが Who、何を What したかを手掛かりにまとめてみます。ただし最初から完璧なものを求めず、通読の際に聖書に印をつける辺りから始めるのが良いと思います。

この地図が徐々にできてくると、各書の見通しが少しずつ良くなってきます。もちろん細かい部分は難しいままですが、ここから大きな構成や特徴、意図などの「記者の視点」が見えてきます。ある出来事を聖書記者はどのように、何を焦点に記したのか、書によっては記述内容の時代から離れてまとめられた痕跡があれば、後代の必要も考えに入ってくる。

神学院で扱う旧約概論の範囲には、各書の時代設定・記者・テーマなどの序論的な学びが入ります。ただし、最初から答えを有名な概説書や注解書に求めるのではなく、自分なりにまとめた内容構成の地図をよく見渡して、そこに見られる特徴を踏まえて注解書などを読むと、なぜその意見や結論なのか、根拠の対話ができます。

旧約聖書は足元ばかり、目に映るものばかりを見て歩くのではなく、地図を頼りによく周りを見渡して、現在地を確認しながら各書を巡るのも幸いです。細部にこだわると迷子になる危険もあります。地図を確認し、充実させつつ読んで行くと、広大な旧約聖書も安全に巡り歩くことができます。

◆神学院で学んだこと

自分を知る

正規コース 石川 順

「あなたがたは、自分自身に気をつけなさい」(ルカ一七・3)

\*

2021年度の歩みが守られたこと感謝します。今年度、神学院ではほとんどの授業がオンラインでした。そのような中でも学びが継続できていることを感謝します。今年度後期の授業の中で、ハラスメントのことについて学ぶ機会が与えられました。学ぶ中でいくつかの気づきがありました。それは、自分自身についての気づきです。牧師ということだけで「力権力」を持つようになり、教会の色んな人との間で力関係が生まれるということに授業で学びました。学ぶ中で自分自身のことを考えさせられました。私はどちらかといえば内向的な、自分に自信が持てないタイプ。そんな自分が権力を握ったら、きつと権力を用いることで自信をつけようとする。そうすれば権力の誤用・濫用が起きて、私自身がハラスメントを起こして人を傷つけてしまう可能性があるという事に気付かされました。もう一つ気付かされたことは、学ん

だことが身に付いていないということでした。授業で学んだことを、家庭や実習教会などで活かそうと思つて意気込むのですが、一週間が経ち再び授業に出席し、テキストを見返して思うことは「学んだことが全然実践できていなかった」ということでした。できていなかったと気落ちする反面、できていなかったという事に気づけたことは大事な一歩だとも思いました。自分自身を知ることが、自分を守り相手を守る大切なことだと感じます。

イエス様は当時の弟子たちに言いました「自分自身に気をつけなさい」と。この言葉は現代を生き、また、牧師になろうとしている私にも語られているのだと感じています。イエス様に聴き、もっと学びたいです。

◆神学院で学んだこと

関係性を大切に

二年目

正規コース 林 眞光

「私たちの交わりとは、御父また御子イエス・キリストとの交わりです。」(1ヨハネ一・3)

\*

いつも皆様のお祈りとご支援感謝いたします。早いもので入学し

てから一年が経ちました。私にとってこの一年はとても速く感じました。コロナウイルスの影響でなかなか自分の想像していた学院生活を送れませんでした。そんな中でも神様は必要な学びを与えて下さいました。神学生としての二年目も神様が豊かなものにして下さると期待したいと思います。本を読む中で新年度は「関係性を大切に」一年にしたいという思いが与えられました。この一年間はコロナウイルスの影響もあり、あまり多くの人と関わる機会がありませんでした。新しい年度もどのような状況になるかはまだまだ読めませんが、機会があれば教会員の方々、学院の先生、神学生の方々など多くの人との関りの中で他者と自分に向き合いながら学びを深めたいと思います。また人との関係性だけでなく、神様との関係も深めていきたいと思つています。



だという事に目を止めたいと思いません。「しなくてはならない」ではなく、神様との交わりの喜びを深く理解することでその時間を大切に。そのことを覚えつつ、人とそして神様との関係性を大切にする一年にしたいと思つています。

後援会コーナー

入学・進級の季節を迎えて  
卒業生・在校生のために  
お祈りの手を挙げよう

BTC 後援会 池田光重

第22次教団総会を終えて、新しい体制で今後の3年間歩むことと



なりましたが、BTC後援会も主の導きを仰ぎながら祈りをもってBTCの働きをサポートして参りたいと願っております。

聖宣神学院ですべての学びは、今の世の中の人々に寄り添っていくために大切な経験であると確信します。(伝道者の書三・11)

- 1 今年卒業された2名の神学生及び修了生のこれからの働きのために
- 2 新しく入学された姉妹のために
- 3 献身に導かれBTCへの入学者が今後も起こされるように
- 4 神学院の経済的な必要が満たされるように
- 5 学院でご奉仕して下さる方々(食堂、図書館、営繕、ベテラハウス)のために
- 6 後援会の世話人になって下さる方が更に与えられるように
- 7 今年から開始された「BTC後援会会費」に多くの教会の方々が加わってくださり、BTC後援会の経済的な自立がなされていきますように

いま神学院では……  
みことばを喜ぶ  
院長●林 正弘



「私は大きな獲物を見つけた者のようにあなたのみことばを喜びます。」(詩篇 一一九・162)

神学院では、当然のことながら聖書の学びに重きを置いています。特に帰納的な学びによって、聖書

自体が何を語っているのかを捉えようとしています。神のことばである聖書は私たちに語りかけます。前に読んだときには気づかなかつた真理を新たに見出すことがあります。学びをいくら掘り下げていってもさらに深みがあります。みことばを学ぶことは恵みであり、喜びです。

その聖書から説教するとき、さまざまな制約を感じる必要があります。最も大きな制約は自分自身の力不足で、もとの確にもっとわかりやすく語ることができたら、もどかしく思います。時間の制約もあります。またそのときを中心メッセージに集中するために、すばらしい真理をいくつも割愛することもあります。一つの書全体をテキストにして語ることはほとんどないと思います。しかし、学びにおいては、それ

らの制約からいくらかでも解放されます。一つの書を取り上げ、時間をかけて学ぶこともできます。昨年後期のクラスでは、ヘブル人への手紙を担当しました。1回一章ほどのペースでわりとじっくり学ぶことができました。神学生の方々には次のクラスで扱う箇所を予め読んでいただきます。また少し考えていただくテーマを出しておき、クラスではそれを分かち合います。自分と同じ見方があればそれは確信につながり、違う見方があれば視野が広がられます。そして教師が学んで整理したものを提示します。

そのような営みを繰り返しながら読み進めていったとき、難解な書ともいわれるヘブル人への手紙の記者の語り口や手法に慣れなくて、イエス・キリストが唯一無二の救い主であり、この方から決して離れてはならない、というこの書の主張が明確になっていきました。

学びとしては不十分な点が多々あったと思いますが、私自身が新鮮な感動と喜びを覚えることができ、感謝しています。

聖書は私たちの信仰と生活の拠り所です。みことばを学びながら、自分自身が教えられます。そのなかで「大きな獲物」を見つけたならば、その喜びをどなたかに伝えたい、なんとかして分かち合いたい、との思いが与えられます。そのような学びを続けていきたいと願っています。

同窓生の近況

59期生

藤枝教会●前里達実



卒業して10年、インターンを含めて12年、藤枝教会でご奉仕をさせて頂いております。昨年8月、沖繩の実の姉を天へ送りしました。彼女は私がインターン実習の時、「余命3か月9%」と宣告され肝臓移植が必要でした。私もドナー候補となり、奉仕継続を祈りながらも、一時、奉仕断念も考えました。しかし市川先生、藤枝教会・那覇教会の祈りに支えられ主も励まして下さり、奇跡的にドナーが与えられ貴い10年の時が与えられました。幼かった3人の姪たちも大學生・高校生と育ちました。姉は最期、みことばによって魂が整えられ、苦しくても周りを励まし召されました。この11年で「主はとこしえに統べ治められる」一方で送った高齢の両親も、主のみことばに慰めを得て、守られ平安です。悲しみを超え、再会する天への希望をもって教会生活に励んでいます。素晴らしい福音をいのちのある限り伝える使命を再確認した年でもありました。皆さまお祈りを感じ、平安をお祈りしております。

神学院スタッフ…恵みの想起

この希望は失望に  
終わることはない

学務課 馬場満子

春の訪れと同時に学院ではあちこちに水仙の花が咲き、沈丁花の何とも心地よい香りが漂います。コロナで人の出入りもめっきり減りましたが、一昨年計画されていたB.T.Cでの年会準備をきっかけにあちこちを整備する中で、改めてこんな静かでよい環境を主が整えていて下さるこの意味を考えたいです。全国の未だ学院を訪れたことのない方、近くでも自分には縁がないと思われていた方々にも今の学院の雰囲気は是非知って頂きたいと思えます。確かにここに主はおられ、知識だけではなく主にはなるとはどういうことなのかイエス様の視線を学べる温かい場所となっています。

- 第六十八期卒業式が行われました。ZOOM併用でしたが、温かい雰囲気の中で2名の卒業生、1名の終了生をお送りしました。
- 今期新たに神学生を1名お迎えします。日本イエス・キリスト教団小松島栄光教会出身の姉妹です。今後の学びのためにお祈りください。
- 本館2階もネットが使えるように設備が整いました。
- 4月から久しぶりに食堂を再開します。改修後初めての本格始動ですが、感染防止の観点からも当面は週2回の使用となります。
- 図書館は動いています。
- 本部での神学院祈り会は行いません。
- ベテルハウスの使用はしばらくお休みします。
- B.T.C後援会世話人の推薦をお願いしています。4月13日までにお知らせください。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。2月の会計報告をさせていただきます。

2月分支援実状  
〔今年度毎月献金目標〕  
¥1,500,000

教会員による  
「神学院サポート献金」  
¥1,052,445

教会団体による「神学院献金」  
¥484,635

合計 ¥1,537,080

その他の献金(一時・特別)  
¥60,000

・振替：00230-0-10138

学苑だより



# 公報

## 本部通達

「モーセは一つの青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上に付けた。蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぎ見ると生きた。」

(民数記21章9節)

第76次年会を越えましたが、引き続きコロナウイルス感染への対応をしながらの新年度の歩みとなります。コロナ禍、牧師の異動や変化のあった教会には、格別な主のみ助けが加えられますようお願いいたします。今月はイースターを迎えます。復活された主を仰ぎ、上よりの力をいただきますように。

### ■本部

《辞令交付》

今年年会をもって、左記の先生方に教職、教職試験、定住伝道師の辞令が交付されました。(括弧内は今年年会の任命地)

▽教職辞令

黒川哲師(新潟教会)

▽教職試験辞令

伊藤明子師(始良教会)

▽定住伝道師辞令

田中利道師(藤枝教会)

\*伊藤明子師は今年年会で当教団に復帰されることになりました。

■総務局

《教職按手礼試験受付延長(案内)》  
年会での発表の通り教職按手礼試験の申込み受付を4月末まで延長いたします。総務局へ申請書の

提出をお願いします。相談は地域担当ブロック・アドバイザーまで。

■国内教会局

《春の教会日程》

- 12日(月) 中京・沖繩
- 12日(月) 13日(火) 南九州
- 19日(月) 東京・東関東
- 19日(月) 20日(火) 北越・北九州
- 20日(火)

神奈川・近畿・東北・静岡  
26日(月) 中国

27日(火) 北関東・四国

《B A 主事会議》5月24日(月)

オンライン

《月例支援金について》

今年度の教会月例支援金の申請

を予定している教会は、申請書を国内教会局までご提出ください。

《女性牧師部》

女性牧師研修会 教育局共催

6月14日(月)

14時~16時(Noonによる開催)

メッセージ 小川宣嗣師

テーマ 〓「コロナ禍にある女性牧

師のセルフケア」

発題 〓古川恵子師(詳細は次号)

《JEA関係》

JEA女性委員会主催による第

5回「かたりば」4月15日(木)

午後1時30分~3時(Noonに

よる開催)

講師 〓ロンゲ朋子姉(一般社団法

人ベアホープ代表)

テーマ 〓「すべての子どもに家庭

を」

■世界宣教局

▽台湾の平瀬光世師は、3月16日

に帰国され、ミッションハウスに滞在後、国内教会に任命を受けられ、ご奉仕を始められます。平瀬義樹師は、後任の久保師が赴任されるまで、台中に残られます。

▽久保光彦師ご一家はビザ申請手続き中です。一日も早くビザが発給されるようお祈りください。

▽3月をもって退職された富澤姉と根廻姉のお証し動画が教団HPで視聴できます。また、平瀬光世師のお証し動画も準備中です。

▽今年の「愛の泉プロジェクト」は、フィリピン、ケニア、台湾、カンボジアで実施される予定です。今年も宣教コイン献金へのご協力を宜しくお祈りします。

《IWF関係》

▽リチャード・バルカー師(元WGM宣教師)が3月3日、召天されました。現地時間12日に告別式がお花を贈りました。教団から弔電と主の慰めをお祈りいたしました。

■教育局

《教育部・信徒教育課》

以下の方々の信徒伝道者資格の更新認定がなされました。

(更新)

池田 光重兄(千葉教会)

斎藤 純雄兄(深川教会)

中山 朝雄兄(中目黒教会)

小原 一夫兄(浜松教会)

山田 由紀子姉(四日市教会)

阿部 妙子姉(別府教会)

山城 明兄(那覇教会)

前田 敦兄(武蔵村山教会)

大土井 智子姉(広島教会)

坂本 淳兄(八王子教会)

(退任)

山口 松子姉(中目黒教会)

なお、現在学びを継続しておられる方が2名おられます。

《青少年部・中高生課》

▽とにキャンフェスティバル

日時 〓3月30日(火)

(Noonによるオンライン開催)

プログラム 〓賛美、名所中継クイズ、各自のお宝紹介、ゲーム、聖書メッセージなど。

\*申込方法は、案内書記載QRコードで各自での申し込みです。その際に各教会の牧師先生にお伝えするパスワードが必要となります。

▽とにキャンスタフ・トレーニング・キャンプ

日時 〓5月16日(日)、23日(日)、30日(日)

(Noonによるオンライン開催)

▽関西の青年集会

5月2日(日) 午後3~5時

Noonによる青年集会「20」開催。

(主催 〓西日本ブロック、中国地区)

講師 〓松尾献師(KG九州地区)

テーマ「REAL(リアル)」

■信徒局

女性部運営委員会4月6日(火)

オンライン

壮年部運営委員会4月20日(火)

オンライン 信徒局運営委員会5

月10日(火)

■聖言神学院

▽春の入学審査結果

次の1名が合格されました。

森徳子姉(日本イエス・キリスト

教団小松島栄光教会出身)

▽入学式・始業礼拝は4月2日

(金)に行われました。

▽教会実習は4日(日)から開始

▽同窓会幹事会 4月26日(月)

オンラインにて。

▽後援会世話人の更新時期です。

ご協力をお願いいたします。

# 消息報告



▽今年年会後、休職、休養をされる先生方のためにお祈りください。  
河村從彦師(休職)  
河村みち師(休養)  
渡辺 寛師(休養)

▽藤本栄造師(引退牧師)は2月18日に召天されました。27日に高津教会でお別れの時が持たれました。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。

▽大場広子師(岐阜教会)のお父様、大場茂兄(船橋教会員)が70年の地上生涯を全うして召天されました。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。

▽植木昌恵師(市川教会)、黛睦子師(鳥取教会)、黛郁子師(高崎教会)のお父様、黛尚兄(高崎教会員)が3月10日、96年の地上生涯を全うして召天されました。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。

▽長崎教会は昨年年会堂返済を完了されました。今後の歩みにさらなる祝福をお祈りいたします。  
教報PDFパスワード 〓4650